

短期目標として実現可能な対策について（骨子案）

1. 患者の病態と受入施設のマッチング

① 病態の分類（必要な対応・処置と緊急度）

- ・病態に応じた受入判断基準について実態を踏まえて検討
- ・患者の病態や医療機関の体制を踏まえ、医療機関ごとに救急患者の受入判断基準や他科との連携体制を構築

② 施設の機能による分類

- ・施設の診療機能を明示し関係者間で共有
- ・施設の診療機能に応じた受入判断基準や地域における役割分担の明確化
- ・救急患者受入のための空床確保とその補償の充実

③ 地域のネットワークの促進

- ・関係者間で顔が見える体制の整備を進めるため、地域の医師等を対象に、情報交換や事例検証のための場を設置
- ・必要に応じ、県境を越えた医療機関間のネットワークを構築

2. 情報の伝達及び効果的活用

① 救急医療機関の状況（病床数、人員）の伝達とその迅速化

- ・地域の実情に応じ、既存ネットワークの活用も含め、より良いシステムを検討
- ・医療機関の状況に応じた受入判断基準の策定

② 情報の統合、センター化

- ・地域の実情を踏まえつつ、救急医療情報システムと周産期救急情報システムとを統合・連携強化
- ・周産期救急情報システムは、かかりつけ産科医療機関と受入医療機関とが情報を共有できるシステムであることが望ましい

- ・地域によっては、県境を越えて共有できる情報システムも必要

③ 搬送先選定の迅速化（コーディネータの配置）

- ・コーディネータを地域ごとに設置
- ・コーディネータは必ずしも医師でなくともよいが、質の確保のため、地域医療に従事していた経験等の要件を設定

④ 患者側との情報交換

- ・母親に対する教育・指導の充実、助産師や保健師の活用
- ・緊急時の対処方法等について家族への啓発活動への支援
- ・積極的な情報提供の実施

3. 施設の機能充実と人員不足への対応

① 病床数の適正化（特にNICUの増床）

- ・未熟児の増加にも対応できるよう NICU 病床を確保
- ・NICU に配置する医師、看護師の確保

② 勤務環境の改善

- ・産科医、新生児科医、麻酔科医の確保と勤務環境の改善が必要
- ・地域の開業医の活用と連携体制の構築
- ・重点化、集約化による体制の強化

③ コメディカル、メディカルクラークの活用

- ・リスクの軽減に資する母親に対する教育・指導の充実
- ・コーディネータとしての参画と必要な研修体制等の整備
- ・情報システムの入力や事務支援のための研修と積極的参画

4. その他